

は じ め に

世界史を受験科目に選んだ皆さんのなかには、基本知識をインプットするためのツールとして「一問一答を活用しよう！」と考える人も多いと思います。しかし、世間には様々な世界史の一問一答問題集があふれていて、「どれがいいんだろう…」と悩むことでしょう。当然、それぞれの一問一答ごとに特色があるわけですが、「入試に出る形式がいいな」「地図がほしいな」「論述も少しやりたいな」「基本用語と難関用語との区別をしてほしいな」など、皆さんの要求をすべて満たしてくれるものは、なかなか見つからなかったのではないのでしょうか。

「だったら、それらの要求をすべて満たしたものを作ってしまうおう！」というコンセプトで作成したのが本書です。

第1部・第2部では、膨大な量の過去問分析をしたうえで、「何となく」ではなく、「本当に頻出の用語」を、「実際に入試に出題された形式」で掲載しました。また、多くの地図を掲載するとともに、入試に頻出の小論述問題も掲載しています。なお、第2部では、歴史総合に関する基本問題を追加しました。

第3部では、第1部・第2部には掲載されていない難関用語を、解説文付きでまとめることで、受験生がまず覚えるべき基本的な用語がどれなのかを明確にしました。PDFを閲覧およびダウンロードしてご利用いただけます。さらに巻末には索引を掲載し、本書を「世界史用語辞典」としても活用できるようにしました。

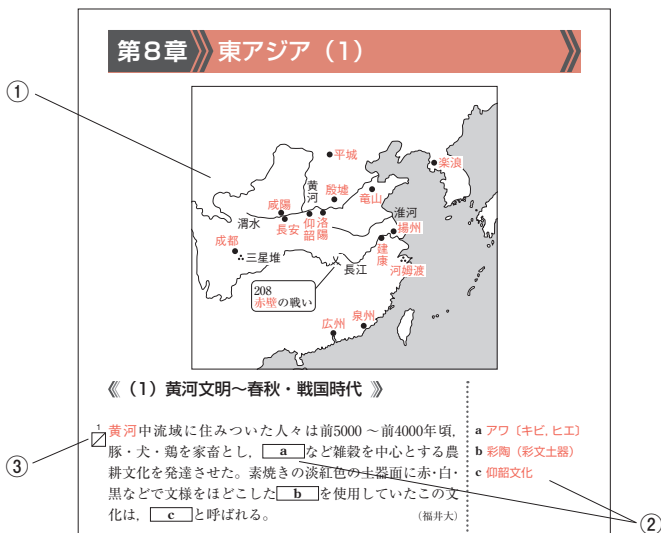
こうして、世界史の初学者から上級者まで、幅広い層の要求にこたえる新しい一問一答が完成しました。世界史を得意科目とするためのベストパートナーの誕生です！本書が、皆さんの第一志望合格への道標になることはまちがいありません。

著者一同

本書の使い方

第1部・第2部

古代から現代まで、時代・テーマ別に35章に区分しました。



① 地図

各章の冒頭に地図を掲載しました。世界史の理解を深め、また近年増加傾向の地図問題を確実に得点するためには、地理的な知識は必須です。各章の問題に出てきた地名はもちろんのこと、起こった出来事なども盛り込みました。特に**重要な情報は赤字にしました**ので、付属の赤シートも活用しながら繰り返し確認して定着をはかりましょう。

② 問題

「実際に入試で問われる形式」で用語を学習できるよう、**過去の入試問題を掲載しています**。そのため、一問一答的な問題だけでなく、空欄補充問題も多く採用しました。解答となる用語と合わせて覚えておきたい、問題文中の**重要用語も赤字**としていますので、1つの問題から多くの知識を学ぶことができます。まず、**解答部分の方を付属の赤シートで隠して答えていきま**

す。それができるようになったら、今度は問題部分の方に赤シートをかぶせて、隠れた用語を解答していきましょう。問題の最後には、辞典となる大学名を掲載しています。志望校の問題が正解できるようになれば、学習のモチベーションもあがることでしょう。なお、解答について、()内は他の表記を、[]内は別解を示すものとして区別しています。

③チェックボックス

用語を正しく覚えたかどうかを確認するために、各問題にチェックボックスを設けました。間違った問題をチェックして何度も繰り返すことで、苦手部分を克服して効率的に学習を進めることができます。

④

論述問題と解答

12. ギリシア人は政治的には分裂状態にあったが、他方、文化的には一つの民族であるという共通の認識を持っていた。この共通認識を支えた諸要素を、60字以内で説明しなさい。(東京大)
オリンポスの神々への信仰の共有と、ホメロスの文学や共通する言語でヘレネスと自称し、他者をバシバロイとして区別した。(57字)
13. スバルタの国制の特徴を先住民支配との関連で90字程度で説明せよ。(北海道大)
ドーリア系の市民が、非ドーリア人の先住民を征服し、隷属民のヘイロータイとして支配した。彼らの反乱に備え、リュクルコス体制と呼ばれる軍国主義体制のもと、市民は徹底的な平等をはかって結束を高めた。(96字)

④論述問題

近年、論述問題の出題が増加していることを受けて、各章の最後に小論述問題を掲載しました。論述問題特有のテーマに加え、一問一答と重複する類出テーマも採用して学習効果の向上を狙いました。論述問題を解く際には、以下のポイントを意識しましょう。

1. 解答を見ずに、自分なりの答案を考える。
2. 解答を見て、足りなかった要素が何なのかを認識する。
3. 足りなかった要素を補完したうえで、自分なりの答案を作成する。

第3部

第1部・第2部の基礎用語をマスターした上級者向けの差がつく用語を集めました。難関私大では、細かな用語も出題されますが、教科書の基本レベルを超えるものをどう対策すればよいのか、茫然としているのが現実ではないでしょうか。そこで、入試で頻出の差がつく用語を収録するのが第3部です。用語の丸暗記で終わらないよう、内容を理解できる簡潔な解説文を付けてあります。これによって、雲をつかむような非効率な学習から抜け出すことができるはずです。第3部の利用方法については、p.395をご覧ください。

目次

第1部 世界史探究…7

- 第1章 先史時代…8
- 第2章 古代オリエント…11
- 第3章 古代ギリシア…19
- 第4章 古代ローマ…28
- 第5章 古代イランと中央アジア…39
- 第6章 南アジア…42
- 第7章 東南アジア…47
- 第8章 東アジア(1)…52
- 第9章 東アジア(2)…67
- 第10章 東アジア(3)…74
- 第11章 東アジア(4)…91
- 第12章 イスラム世界の形成と発展…100
- 第13章 イスラム世界の繁栄…112
- 第14章 ヨーロッパの形成と発展(1)…122
- 第15章 ヨーロッパの形成と発展(2)…130
- 第16章 ヨーロッパの形成と発展(3)…135
- 第17章 ヨーロッパの形成と発展(4)…144

第18章 主権国家体制の形成・展開…163

第19章 ヨーロッパ諸国の海外進出と抗争…182

第2部 世界史探究・歴史総合…189

- 第20章 革命の時代…190
- 第21章 19世紀の欧米…203
- 第22章 アジア・アフリカの動揺と民族運動…236
- 第23章 帝国主義の時代…259
- 第24章 第一次世界大戦とロシア革命…271
- 第25章 ヴェルサイユ体制と欧米諸国…281
- 第26章 第一次世界大戦後のアジア・アフリカ…290
- 第27章 世界恐慌とファシズム…301
- 第28章 第二次世界大戦…309
- 第29章 戦後の国際関係…316
- 第30章 現代世界(1)…331
- 第31章 現代世界(2)…337
- 第32章 現代世界(3)…345
- 第33章 現代世界(4)…352
- 第34章 現代世界(5)…359
- 第35章 歴史総合…367

第3部 差がつく用語 閲覧・ダウンロードについて…395

索引…396

第1章 先史時代



1 最古の人類は猿人と呼ばれ、歩行という点で他の霊長類とは一線を画した。
(早稲田大)

直立二足

2 現在知られる最古の人類は、アフリカのチャドで発見された、約700万年前に生息していたと思われるaである。b猿人は、エチオピアで化石が発見され約440万年前に生きていたと思われ、約420万年前からは、cがアフリカで生息していた。
(立命館大)

a サヘラントロプス

b ラミダス

c アウストラロピテクス

3 約240万年前に登場したaは、南アジアや東南アジアを経て、東アジアにも到達し、bなどの改良された打製石器を用いて狩猟や採集生活を営んでいた。
(関西大)

a 原人

b 握斧(ハンドアックス)

4 東南アジアで発見されたをはじめとする更新世の人類は、現在の東南アジア住民との間に直接の関係はない。
(関西学院大)

ジャワ原人

- 5 北京の郊外に位置し、**北京原人**の化石が出土した洞窟のある場所はどこか。
(関西学院大) **周口店**
- 6 およそ10万年前のヨーロッパにおける**旧人**である[]人が、**火**を恒常的に使っていたのは確実である。(中央大) **ネアンデルタール**
- 7 現生人類の直接の祖先にあたる**新人**は、約20万年前に出現したと考えられ、ヨーロッパの[a]や中国の[b]などがその代表にあたる。
(駒澤大) **a クロマニヨン人**
b 周口店上洞人
- 8 打製石器のなかで最も原始的な、自然石を打ち欠いただけの石器は何と呼ばれているか。
(中央大) **礫石器**
- 9 新人が考案した**剥片石器**のうち小さなものは、[]と呼ばれ、木や骨の柄にはめこんで使用されることも多かった。
(法政大) **細石器**
- 10 新人が使用した道具には、石器のほかに^{もり}銚や針といった[]も数多くみられ、多様な生活様式を築いたことがうかがえる。
(駒澤大) **骨角器**
- 11 原人は、周囲の環境から木の実やイモ類、あるいは小動物を摂取している[]民であった。
(中央大) **狩猟・採集**
- 12 新人は、**洞穴絵画**を残した。ヨーロッパで発見された遺跡としては、スペインの[a]やフランスの[b]が有名である。
(関西大) **a アルタミラ**
b ラスコ
- 13 **農耕・牧畜**がはじまると、人々は集落を形成し、**織物**や**土器**をつくり、また**石臼**などの[]石器を用いるようになり、ここから**新石器時代**がはじまった。
(立教大) **磨製**
- 14 人間の社会は、狩猟・採集を中心とする**獲得経済**から**農耕・牧畜**による[]経済に移行した。
(中央大) **生産**

15 前2千年紀前半、古アッシリアの商人は、**青銅器**をつくるのに不可欠な金属である[]を、イラン方面から輸入してアナトリアに運び、その見返りに金や銀を得た。

(早稲田大)

錫

16 今から約1万年前に、メソポタミア周辺の丘陵域である「[]地帯」で農耕がはじまった。

(中央大)

肥沃な三日月

17 初期農法は、雨水にたよる**乾地農法**であり、肥料を用いない略奪農法であった。しかし、古代メソポタミアで農耕に必要な水を人工的に供給する[]農業がはじまると、食糧生産が発達し、世界の各流域に**文明**が誕生した。

(立教大)

灌漑

論述問題と解答

1. 生産経済以前の段階はどのようなものだったか、30字程度で説明せよ。

(新潟大)

狩猟・漁猟・採集を中心とした獲得経済であった。(23字)

2. 食糧生産革命の経済・社会的影響について、60字程度で説明せよ。

(高崎経済大)

食糧の余剰生産と貯蔵が可能になり、生活が安定したことで人口が飛躍的に増大した。定住化が進み、文明の形成がうながされた。(59字)